

令和元年度卒業証書授与式（令和2年3月3日） 校長の言葉

- 寒さも和らぎ、吹く風に春の訪れを感じるようになりました。ただいま卒業証書を授与いたしました第43期262名の皆さん、卒業おめでとうございます。これまで心躍る楽しい日もあれば、苦しく困難な日もあったことでしょう。いずれにしても、この3年間で大きく成長したことは間違いありません。
- 本来であれば、この場にこれまでお世話になった保護者や来賓の方々に来ていただき、立派に成長した皆さんの姿を見ていただきながら、一緒に卒業をお祝いするところですが、新型コロナウイルスの感染が拡大していることからやむを得ず、このような形での卒業式となりました。保護者の方々だけでなく、皆さんもとても残念に思っていることと思います。その方々の思いも含めて、私たち職員が皆さんの門出を心からお祝いし、力の限り、エールを送りたいと思います。
- さて、30年間続いた平成が終わりを告げ、令和という時代を迎えました。皆さんがこれから一步を踏み出すこの新しい時代はどのようになるのでしょうか。その時代は、国家や地域の垣根を超え、世界中で資本や情報のやり取りが行われるグローバル化や、人工知能、いわゆるAIやビッグデータなどに代表される情報通信技術の進展など、変化がとても目まぐるしく、これまでの社会とは大きく異なる予測不可能な時代といわれています。しかし、そういう社会に臆することなく、積極的に飛び込んで関わり、よりよい社会と幸福な人生の作り手となってほしいと願っています。
- そう聞くと何だか社会に出ていくことが恐ろしく不安に感じる人もいるかもしれませんが、しかし、心配しなくても大丈夫です。そのために、皆さんに3つのアドバイスをしたいと思います。よく聴いて覚えていてくださいね。まず一つ目は、これまでの皆さんの人生の中で、誰かにしてもらったことを思い出して改めて感謝をするということです。忙しいにもかかわらず、毎朝、お弁当をつくってもらったお母さん、部活動で、最初は思うように上達しない自分を、粘り強く指導し続けてくれた先輩、進路で迷っているときに、一緒に資料を探しながら考えてくれたクラスの友達や先生など、大勢の人に助けられて今の自分があるということを思い出してみてください。
- そして、二つ目には、実は、そんな自分も誰かのために役に立つ存在なんだということを感じて、忘れないということです。これから皆さんは、大学に行く人、専門学校に行く人、就職をする人など様々な道に分かれます。そこで考えてみてください。皆さんは、何のためにその道に進むのですか。あなたがその道に進むことで、将来、どのような人達をどのように幸せにできるのですか。皆さん一人ひとり、社会に役立つ大きな

力を持っています。最初はそれが小さな力でも、時間をかけて磨いていくことで少しずつ大きくなります。やがてその力は、あなたの家族や友人はもちろん、あなたと関わる人々を助け、支えることができるようになります。人にはそれぞれに果たすべき大切な役割があります。そのことを信じて、それを考え続けるようにしてください。

- そして3つ目は、人生は一度きりであるということを考え大切にすることです。歌手の竹内まりやさんの書いた曲に「いのちの歌」という曲があることは皆さんもよく知っていると思います。今年の紅白歌合戦でも歌っていましたね。その歌詞の中で「いつかは誰もがこの星にさよならをするときがくるけれど、いのちは継がれていく」というフレーズがあります。私はこの言葉を聴いたときとても胸を打たれました。何かの縁で、奇跡的に、この星の同じ時に、もらった皆さん一人ひとりのいのちはかけがえのないものです。そのいのちを大切にしてください。そして後悔のないように精一杯生き抜いてください。
- 今年の12月、中村哲さんという一人の日本の医師がアフガニスタンで銃撃され亡くなりました。皆さんもニュースで聴いて覚えている人もいます。その中村さんは、最初、医師として38歳にパキスタンに赴任し、貧困層の人々の診療に携わっていました。しかしその後、アフガニスタン難民のための医療に関わる中で、大干ばつを目にし、ここでやるべきことは生きるために水を引くことだ、人々に安全な飲料水を確保することだと思い至り、現地の人々の協力を経て、30年以上の年月をかけて、1600本もの井戸を掘り、全長25キロメートルに及ぶ灌漑用水路を建設しました。縁もゆかりもないアフガニスタンに、一人の日本人がすべてをなげうち、これほどの情熱を注いだのはなぜでしょうか。炎天下に鍬をふるう中村さんの脳裏には、いつも飲み水を与えられ、作物を育てながら安心して毎日を過ごす現地の人々の笑顔があり続けたのです。残念ながら中村さんはそのアフガニスタンで、現地の多くの人々に惜しまれ帰らぬ人となりましたが、かけがえのない自らのいのちを、大勢の人々のために役立てた人生は素晴らしいものであったと思います。皆さんも、この中村さんのように、自らの役割を生かすことで、きっと素晴らしい人生を歩むことができると思います。どうか、自分を信じて、どんな困難にもくじけることなく、前を向いて進んでいってほしいと思います。
- 最後に一つ、皆さんにお願いがあります。これからの新しい道を進んでいく途中で、躓いたり迷ったりして前に進めないときは、この城山の里に君たちの先生がいることを思い出してみてください。いつでも私たちはあなた方の訪れを待っています。
- 希望に満ちた旅立ちの日、皆さんの「これからの人生に幸多かれ！」と祈念して、結びいたします。本日は、まことに、おめでとうございます。